

現行の教育課程における国際理解教育の実践

大 塚 圭 (外国語科)

1. はじめに

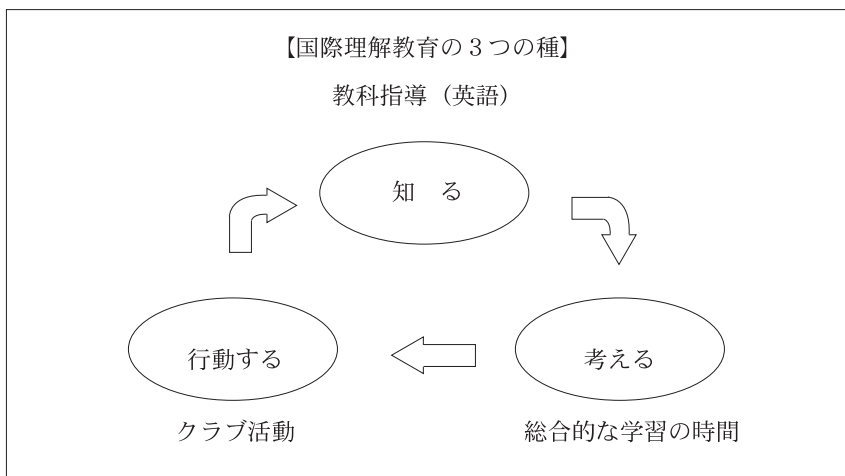
一般の学校現場における国際理解教育¹の実践は、時間を確保することが難しかったり、英語学習や異文化体験に終始してしまったり、必ずしも浸透していないのが現状である。一方、スーパーグローバルハイスクール(SGH)の認定校やグローバル人材を育成すべく特別なコースを設置する学校もある。しかし、すべての学校で国際理解教育を中心に据えた教育課程を実施することは現実的に困難である。だからこそ、現行の教育課程において、生徒たちが地球規模の諸課題を知り、考え、行動することのできる場を提供していくことが大切であると考えます。本稿は、現行の教育課程における教科指導や総合的な学習の時間、クラブ活動を中心に据えた国際理解教育の有用性を検討することを目的としている。教科指導や総合的な学習の時間、クラブ活動という一つひとつは小さな種のような教育活動を生徒たちが「知る→考える→行動する」ように組み合わせることによって、国際理解教育の大きな花を咲かせてくれることを期待している。

2. 実践事例の紹介

(1) 知る：教科指導における実践（英語）

教科指導（英語）では、生徒たちが地球規模の諸課題を知ることのできる

¹ 1954年第8回ユネスコ総会が採択した「国際理解と国際協力のための教育」を略称した用語。ユネスコは、「74年勧告」以降、国際教育の名称を使用している。しかし、日本の教育現場では、依然として国際理解教育の名称を使い続けているのが現状である。



英文の題材を選択した。難民や人口など生徒たちにとって背景知識が必要な題材は、参加型のアクティビティ²を活用して、英文理解の助けとした。また、英語でのプレゼンテーションなどの言語活動を充実させるように留意した。以下では、使用した題材および授業実践の一つを紹介する。

〔主な題材〕

教 材	テ ー マ
The Japan Times ST	“Fears of Western strike on Syria spread throughout Middle East”（難民）
The World Ahead	“Too Many People? Or Too Few?”（人口）
Fact Files Chocolate	“The darker side of chocolate” （フェアトレード）
The Real World Today	“Use of Child Labor”（児童労働）
Pathways to Knowledge	“What is Virtual Water?”（水）

² 開発教育などの分野で使用されるフォトランゲージやランキング、ロールプレイなどの学習者中心の活動。

〔授業実践事例〕

題材：Too Many People? Or Too Few?

（世界の人口分布における偏りを考える）

1. 英文の題材を使用して、世界の人口問題について理解する

英文で地球規模の諸課題を知ることが目的としているので、精読ではなく、速読を促し、本文を要約する。

要約例

人口が増加する開発途上国と人口が減少している先進国の現状は、人口分布の偏りを生じさせている。人口分布の偏りを解消するためには、それぞれの現状に見合った解決策が必要である。

英文を一部抜粋

By contrast with China, today more and more countries are worried about underpopulation, not overpopulation, and Japan is one of them. Statistics show that Japan's fertility rate is down around 1.5; if this trend continues, the country's population will soon level off and then begin to decrease. [paragraph continues]

2. 参加型アクティビティで世界の人口分布を把握する

- ①世界の大陸の人口比をもとにペットボトルキャップを人口比と同じように世界地図の上に並べる。（参考：ワークショップ版 世界がもし100人の村だったら）
- ②世界の人口密度の高い国と低い国での問題点をブレインストーミングする。
- ③人口分布の偏りを解消するために必要なことを考える。



キャップを重ねることによって
立体的に人口分布を把握



人口密度の高い国と低い国の
問題点を考える

3. プレゼンテーション

世界の人口分布における偏りを解決するための方策を英語でプレゼンテーションする。

生徒の原稿を一部抜粋

Is there any way to solve the problem
of the population distribution?

I think that Asian people should move to a foreign country because the world population is too concentrated in Asia. I will propose to immigrate to Australia, where population density is low. Although Australia is almost completely occupied by desert, the latest techniques will enable us to live there. [paragraph continues]

(生徒の感想)

「児童労働」「フェアトレード」「人口問題」等多岐にわたる英文を読み、その内容をまとめ、英語で発表や討論をした。そのため、英語の力がついたばかりでなく、開発途上国が抱える問題や、日本と諸外国の相違点などの知識が身につき、また関心を持つようになった。大学でも開発途上国の経済について学びたいと考えている。

(2) 考える：総合的な学習の時間における実践

(高校生のための国際協力入門)

本校では、土曜日の3時間目と4時間目に総合的な学習の一環として、自由参加型の土曜講座を開講している。その一つとして、2012年度から「高校生のための国際協力入門」を実施した。生徒たちが地球規模の諸課題について考えを深めるために、さまざまな開発途上国を題材として、生徒の気づきや変容を促す学習活動を中心に授業を展開した。主な学習内容と授業実践事例を以下に示す。

[主な学習活動]

題 材	内 容
援助する前に考えよう(タイ)	募金を求める1枚の看板を通して、支援のありかたを考える。
GNH政策を支援する(ブータン)	ブータンのGNH政策を理解し、幸せの価値観を考える。
パーム油のはなし(マレーシア)	油ヤシの農園開発を通して、複雑な油ヤシ経済を考える。
援助国になる(バングラデシュ)	経済開発とともに人間・社会開発の概念を理解し、理想の国際協力を考える。
難民のかばん(ルワンダ)	難民の生活をシミュレーションすることによって、平和について考える。

[授業実践事例]

題材：ブータン（GNH政策を支援する）

1時間目 ブータンのイメージを膨らませ、国家政策である国民総幸福量（GNH）を理解する

1. フォトランゲージ³でブータンのイメージを膨らませる。

〔フォトランゲージで使用した写真〕



学校に通う子どもたち



ブータンの人々の生活



バザールの様子



首都ティンプーの街の様子



チョルテンの周りを歩く人々



ブータンの農村風景

³ 1枚の写真から、その写真は何をしているのか、どこの国なのか、など感じ取れるものや気づきを起点として、関心や理解を深める手法。

2. 国内総生産(GDP)、人間開発指数(HDI)、国民総幸福量(GNH)を比較する。
3. GNHの9つの指標について具体例を考え、GNH関連図を完成させる。

これは、何のランキングでしょうか？日本とブータンを比較してみましょう。

国内総生産 (GDP)		人間開発指数 (HDI)		国民総幸福量 (GNH)	
順位	国	順位	国	順位	国
1	アメリカ	1	ノルウェー	1	デンマーク
2	中国	2	オーストラリア	2	スイス
3	日本	3	オランダ	3	オーストリア
4	ドイツ	3	アメリカ	4	アイスランド
5	フランス	5	ニュージーランド	5	バハマ
10	インド	12	日本	8	ブータン
26	台湾	26	シンガポール	15	オランダ
50	ルーマニア	50	ルーマニア	23	アメリカ
88	エチオピア	88	コロンビア	82	中国
121	カンボジア	101	中国	90	日本
166	ブータン	140	ブータン	125	インド
184	キリバス	186	ニジェール	177	ジンバブエ
185	ツバル	187	コンゴ	178	ブルンジ

経済規模 平均寿命、教育、国民所得 精神的な豊かさ

日本とブータンを比較して何のランキングかを考える



生徒の作成したGNH関連図

2時間目 ブータンで実施されているJICAプロジェクトを参考に具体的な支援策を考える

1. 実際にブータンで実施されている支援プロジェクトをクイズ形式で紹介する。

〔クイズで使用した写真〕



地方電化促進プロジェクト



生ゴミを肥料化するための
コンポストプラント



メディア支援



体育教員派遣



職業訓練校の質的強化プロジェクト

2. 提示された支援プロジェクトについて優先順位を決める。(ランキング⁴)
3. 最も重要なプロジェクトについて具体的な支援策を考え、ワークシートに記入する。

3時間目 支援策について自由な対話をし、より多くの意見を共有する

1. 課題として取り組んだ支援策をワールドカフェ⁵形式で共有する。
2. 最も印象に残った支援策を投票で決める。

〔ワークシート①〕



グループメンバー

～ブータンを支援しよう～

職業訓練の質的強化

現状

ブータンでは、急速な人口増加が続いており、若年層の増加による雇用問題は深刻化している。ブータン全体の失業率は3%強とされているが、これを都市部の若年層に限ると10%を超える状況にある。

考えられる原因

ブータンでは就職できる職種が限られていると思われる。また、若年層においては職業能力不足が原因であると考えられる。




⁴ ある問いに対する選択肢をある基準（重要だと思う順、好きなもの順など）で順位づけする手法。

⁵ 少人数のリラックスした雰囲気の中で、自由な対話をし、時々他のグループのメンバーとシャッフルしながら、より多くの意見を共有する手法。

〔ワークシート②〕

プロジェクト名
プロジェクトPW
考えられる政策
職業体験を含む講演会を実施し、同時に教育者の育成も行う。 また、中学、高校、大学で職業教育も行う。
GNHの9つの指標との関係
GNHの指標 生活水準・教育・時間の使い方・精神的安定
GNHの指標との関係 講演会、中学、高校、大学などの教育の場をかりて、職業能力を高めることにより、様々な職種への就職が可能となり、生活水準が向上すると考えられる。個人においては、職を得ることにより、精神的安定が得られ、また有効的な時間の使い方を学べると考えられるため、ブータン政府の国家政策を支援することができる。

(生徒の感想)

支援策は、私たちのグループでは一時的な支援ではなく、その支援が終了したあとでも、ブータンの人々だけで自立した生活ができるような政策を考えるようにしました。職業訓練校の設置や地方を発達させることで都市部の過密化を分散させようと考え、自分が本当に支援をしているような気持ちで取り組むことができました。

(3) 行動する：クラブ活動における実践（国際ボランティア同好会）

生徒たちが実際に行動できる場として、2012年に国際ボランティア同好会を設立した。JICA地球ひろばやユニセフなどの施設訪問やボランティア活動、校内での募金活動などを中心に活動した。次に示すものは、生徒たち

が活動した内容をまとめたものである。

〔主な活動内容〕

活 動	内 容
フィリピン支援	スラムで暮らす子どもたちに校内で集めた靴を現地団体ハッピーキッズ ⁶ に送付
文化祭においてフェアトレード商品の販売	フェアトレードについて多くの人に知ってもらうために、パルシック ⁷ のコーヒーマやオックスファム ⁸ の紅茶、シャプラニール ⁹ の雑貨を販売
カンボジアのブランコ建設支援	文化祭でのフェアトレード商品の売り上げおよび校内での募金をJHP・学校をつくる会 ¹⁰ のカンボジアにおけるブランコ建設に寄付
杉並区民の手でネパールに学校を！キャンペーン	書き損じはがきや未使用切手の回収を校内で呼びかけ、NPO法人チャイルド・ファンド・ジャパン ¹¹ のネパール支援に協力

〔活動内容の詳細〕

活動目標：日本の高校生が途上国の貧困や格差などを地球規模の課題として捉え、国際社会に貢献していこうとする態度を育成する。

⁶ フィリピン・マニラのスラムを拠点に活動するボランティア団体。

⁷ 国際協力とフェアトレードを主な活動内容としている特定非営利活動法人。

⁸ 世界17の国・地域に拠点を置き、世界90カ国以上で活動する国際協力団体。

⁹ 南アジアを中心に子どもや女性の支援活動を行っている特定非営利活動法人。

¹⁰ カンボジアを主な対象国とし、「学校」や「教育」をテーマに活動をしている特定非営利活動法人。

¹¹ アジアを中心に貧困の中で暮らす子どもたちの支援活動をしている特定非営利活動法人。

1. フィリピン支援

スラムで暮らす子どもたちが裸足で生活をしている現状を考え、校内で使用しなくなった靴やサンダルを集め、現地団体ハッピーキッズを通して、子どもたちに配布。



校内で集めた靴を洗う生徒たち



靴を受け取るスラム地区の子どもたち

2. 文化祭においてフェアトレード商品の販売

販売までの流れ

- ①フェアトレード商品を販売している店舗を訪問したり、ワークショップに参加したりして背景知識を学習。
- ②グローバルフェスタなどの国際協力イベントで実際にフェアトレードコーヒーの販売を体験。
- ③フェアトレードについて多くの人に知ってもらうために、文化祭でフェアトレードコーヒーや紅茶、雑貨を販売。



フェアトレードについて学ぶ生徒たち



文化祭での展示および販売

3. カンボジアのブランコ建設支援

文化祭でのフェアトレード商品の売り上げおよび校内での募金をJHP・学校をつくる会の活動の一つであるブランコ建設に寄付。



校内での募金活動



JHPのボランティアの人々がブランコを建設

(生徒の感想)

間接的ではありますが、途上国の現状やそれを改善するための活動を多くの人に知ってもらっただけでも、社会貢献になるということが分かりました。この同好会で、募金活動や靴の回収をしています、それに加えて、途上国の現状や諸課題を解決するための方策を知ってもらえるようなものを何かできればと思います。

3. 考察

1974年第18回ユネスコ総会において「国際理解、国際協力および、国際平和のための教育ならびに人権および基本的自由についての教育に関する勧告（1974年国際教育勧告）」が採択され、国際理解教育（国際教育）の基本的な考え方における総括的なまとめが示された。国際教育勧告からも明らかなように、国際理解教育は、「国際理解のための教育」だけでなく、国際社会に参加できる能力と態度を養う教育であると考えられる。本稿での取り組みが、生徒の感想で述べられているように、単なる英語学習や異文化体験ではなく、「国際協力および国際平和のための教育」を提供する機会になったことは大きな成果である。これらの実践をきっかけに、多くの生徒たちが地球規模の諸課題に関心を持つとともに、今まで遠い世界の特別な存在であった開発途上国に思い

を馳せ、自らの行動を考えるようになった。

生徒の感想

これまで募金をするとしても、ただ単にお金を出すだけでどこかにいる貧しい人のために良いことをしたと満足していました。しかし、今考えてみると、そのお金がどのように使われたのか、はたしてそれは本当にそこで暮らしている人のためになったのか、とても気になります。ただその国の経済発展のために使われ、結果的にそこに暮らしている人が苦しんでいたとしたら、とても悲しいです。これまであまり意識したことのなかった日本の国際協力や開発途上国の現状について多くのことを知ることができました。

生徒の感想

テレビでニュースを見るときに、諸外国、特に開発途上国で起こった出来事を他人事に思わないようになりました。また、国際協力というと、お金があって豊かな国が、お金がなくて貧しい国にするものというイメージだったけど、豊かさというものは、それぞれの国によって捉え方が違うものであって、支援する国とされる国の関係は上下のものではなく、二人三脚のものだと思いました。今まで知らなかった世界の捉え方を勉強することができたので、大学生になったら、外国に行って支援活動をしたいです。

近年、学力向上への対応などにより、学習内容および授業時間が増加し、国際理解教育に取り組む時間の確保が困難になっているが、本稿での取り組みは、一般的な教育活動である教科指導や総合的な学習の時間、クラブ活動を組み合わせた汎用性のあるものである。そのため、国際理解教育を中心に据えた教科や科目が設定されなくても、教科等を横断した学校全体での取り組みになる可能性を示唆している。一つひとつの教育活動は小さな種のようなものだが、それらを組み合わせることによって国際理解教育の大きな花を咲かせ、その花は、

現行の教育課程にしっかりと根をはり、あらゆる教育場面で生徒たちが国際社会に参加できる能力と態度を養う機会を提供してくれるだろう。

4. おわりに

現在は、開発教育、多文化共生教育、平和教育、環境教育、人権教育、ESDなど国際理解教育に隣接する分野が多く存在するが、ある特定の教育分野を学校現場で実践するというよりはむしろ、国際理解教育と現行の教育課程との関係性を明確にし、学校現場での理解を促進することが重要であると考え。2014年度より、「高校生のための国際協力入門」は、タイでのフィールドワークを加え、さらに学校教育に求められている課題解決能力を養うという目標を明確にして、JICAや株式会社ゼンショーホールディングス、中央大学国際センターとの連携による国際協力体験プログラムにリニューアルすることになった。学校教育に求められている「問題解決的な学習」と「社会貢献」という二つのキーワードを国際理解教育に取り入れて実践することは、これまで活動してきた「現行の教育課程における国際理解教育の実践」の有用性が認められた一つの成果である。国際理解教育を題材とした課題解決型学習については、本稿ではふれられなかったが、国際理解教育と現行の学習指導要領との関係性およびその実践は、これに続く論考を参照されたい。

〔付記〕

本稿は、独立行政法人国際協力機構(JICA)の主催するグローバル教育コンクール2014にて「JICA地球ひろば所長賞」を受賞した「国際理解教育における3つの種 ～大きな花を咲かせるために～」を加筆修正したものである。

〔参考文献・資料〕

- 開発教育研究会編『新しい開発教育のすすめ方Ⅱ 難民』古今書院、2000年
- 開発教育協会『「援助」する前に考えよう―参加型開発とPLAがわかる本』2006年
- 開発教育協会『参加型学習で世界を感じる―開発教育実践ハンドブック』2003年
- 開発教育協会『パーム油のはなし―「地球にやさしい」ってなんだろう?』2002年
- 開発教育協会『ワークショップ版―世界がもし100人の村だったら』2003年
- 国際開発学会編『国際協力用語集（第4版）』国際開発ジャーナル社、2014年
- JICA地球ひろば『開発教育指導者研修について』2014年8月7日（配布資料）
- JICA地球ひろば『平成24年度教師海外研修報告書』2014年
- 田中治彦編『開発教育 持続可能な世界のために』学文社、2008年
- 田中治彦『国際協力と開発教育―「援助」の近未来を探る』明石書店、2008年



国際協力のイベントではNGOのブースをお手伝い

6月下旬の土曜日、中央大学杉並高等学校（以下、中大杉並）の教室に入ってきたのは、見慣れない布を身にまとった大塚圭先生だ。「今日のテーマはプータンなので、現地で買った民族衣装を着てきました。ちょっと恥ずかしいですけど着ているのは、プータン人男性の正装」今日の授業は何だろー。いつものスーツ姿ではない先生に、みんな興味津々の様子だ。

中大杉並では、毎週土曜日の午前中に選択制の「土曜講座」を行っている。総合的な学習の時間の一種で、英会話、TOEIC対策、キャリアデザインなど約20種類の講座を準備。自分の興味・関心に応じて、好きなものを選ぶことができる。そして、大塚先生が昨年から始めた講座が「高校生のための国際協力入門」だ。

教室から 世界に思いをはせる

「皆さんは今日、プータンへのスタディーツアーに参加します。さあ、旅のスタートです」

黒板前のスクリーンに、現地で撮影された写真が次々と映し出される。緑豊かな自然、素朴な笑顔、世界を舞台に舞う舞踏、現地の料理。段々高まった教室が華やかになる。その説明を聞きながら、じつと目に入る生徒たちの表情も印象的だ。

「さてここが質問です。みんなの背筋がスッと伸びる。訪問先の村に日本語と、この村のために10ドル募金してください。」と日本人の女性の名前を書かれた



フィリピン子どもたちに送るため、校内で集めた靴を洗う生徒たち

ている。「あなただったら募金しますか？」

これが今日のディスカッションの話題だ。4人1組のグループに分かれて、紙に意見をまとめていく。

「この日本人、誰だか分からないし、募金しない方がいいよ」

「でも日本語で書いてあるし、信頼できそうな気もする？」

「10ドルがどのように使われるかを書いてくれば……」

「そもそも、幸せの国。なのに、募金が必要なのかな？」

「一人一人が思いをぶつけ合う。プータンはもちろん、開発途上国と呼ばれる国

に行つたことのある生徒は一人もいない。それでも大塚先生の生の体験談を聞き、幸せの国だけではないプータンの姿が彼らには見えていくようだった。「この質問に答えはありませんが、何を考えるに、ちょっとしたことに疑問を感じ、考えてほしいと思います」今日の授業を締めくくった、「いろいろな国のことについてもっと知って、価値観を広げたいんぞ」と話すのは2年生の大久保沙紀さん。彼女は世界と日本のつながりを感じられるこの講座が大好きだという。

そしてもう一つ、新しい動きが。昨年、中大杉並には「国際ボランティア同好会」が立ち上がった。エコキャップ運動や文化祭でのフェアトレードコーヒーの販売など、部員たちが「高校生ができること」に取り組んでいる。「僕たちには想像できない生活を送っている人がたくさんいる。そのことを忘れず、まずは身近でできることを探したい」と3年生の池田智之くん。彼の高校の卒業論文のテーマは「フェアトレード」大学でもボランティアアサキクルに入りたいと願っている。

「みんなが海外に行けるわけではない。行く必要もないと思っています。授業を通じて気づきが生じるヒントになれば」と大塚先生。中大杉並にまかれた国際協力の種が、いすれあめる土地で新しい花を咲かせてくれることを信じている。



ブータンの民族衣装を着た大塚先生とブータンへの支援について考える生徒たち。グループディスカッションではさまざまな意見が飛び交う

世界とつながる 教室

幸せを見つめる 旅に出る

高校・大学一貫教育を推進する中央大学杉高等学校。教室での学びを通じて、世界とのつながりを感じてほしい。校内にまかれた数々の国際協力の、種が、少しずつ芽を出し始めている。



教室からブータンに 行ってみよう！

「さあ、席に着いて。3時間目の授業を始めます！」
チャイムが鳴ると同時に、ガラップと教室の扉が開いた。
「あれ？」「どうしたの？」「生徒たちからさわめきが起こる。どうやら、いつもと様子が違うようだ。」



学園祭ではフェアトレードコーナーを販売



英語の授業でもフェアトレードについて調べて紹介